

西建第 08102301 号

平成 20 年 10 月 23 日

国土交通省道路局長 殿

岩手県西和賀町

町長 高 橋



道路行政についての意見. 提案の回答について

平成 20 年 9 月 19 日付けで依頼のあった、道路行政についての意見. 提案について別紙の通り提出しますので宜しく取り計らいをお願いします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岩手県西和賀町

西和賀町では現在人口7,300人、65歳以上の高齢者が4割近く、更に豪雪地である。

このような町における道路の整備、充実には除雪を含め、実に「命綱」そのものである。

1. 保健・医療・福祉のための道路
2. 防災・安全確保のための道路
3. 産業振興のための道路
4. 環境保全のための道路

上記のどれをとっても整備は不十分である。

人間生活と道路は昔から密接不可分のものであるのに、「道路」の経済的な価値・金儲けのためになるかという尺度だけで考えていることがそもその間違いである。

もっと「人間の命」を「人間として活かす」「人間としても尊厳をまもる」を平等に保障するための道路という前提にたった道路行政であるべきである。

次に、自然環境の保全と整備のために道路に重点をおくべきである。優れた資源環境の保護保全は後世の人々に残さねばならない絶対的な財産であるからである。

道路整備の願いは何十年も続けても果たせなかった地域のあるのは、経済優先に傾き過ぎているからだと思う。

②-1 地域の現状と抱える課題

岩手県西和賀町

○現状

本町の国道と県道の総延長は、国道-20.3km、県道-69.3km

これに掛かる経費(道路維持費、除雪費・新設改良・災害復旧)は、平成 17 年度が 1,346,293(千円)、平成 18 年度が 1,151,484(千円)、平成 19 年度が 691,256(千円)である。

平成 19 年度の経費は 17 年度・18 年度と比べ半分ほどに減じているのは、新設改良がなされていないからである。改良箇所が減じたからではありません。財源がないとの理由でした。これは、国の計画性の無さを証明するものと考えている。

町道は 1 級 2 級その他を合わせて総延長は 326.5km である。

これに掛かる経費は平成 17 年度が 419,042(千円)、平成 18 年度が 463,063(千円)、平成 19 年度が 758,187(千円)である。

町道における平成 19 年度の経費が多いのは、豪雨災害の復旧があつたからである。

町道の経費の国・県からの補助は、国道・県道の 3 倍の総延長にかかわらず全体の 3 割から 4 割であり、残りは町の一般財源かたまかなうもので、町の産業観光に必要なもの、住民の要望によるものも整備出来ない現実である。

○課題

① 町道「林道夏油湯田線」(約 8km)は国有林内にある、旧「鷲合森鉱山」(経営当時、三菱鉱業株式会社)のズリ等の処理施設に通ずる道路であるが、豪雨のため道路が寸断されている。「鉱山処理施設の管理補充」のための作業ができないので、「道路補修」または「新設回路をおねがいする」との要望書が管理会社である「三菱マテリアル株式会社」より提出されている。

しかし、現在の町財政ではどうすることもできないでいる。

これは、一自治体で処理できる問題ではなく、国が解決すべき問題と考えている。

② 産業と深くかかわる林道の「災害復旧」にかかわって、「治山治水事業」の沢の土砂ダム工事と「道路復旧」「道路新設」工事は密接に関係があるのにばらばらに行われている現実がある。これは、安全安心の災害に強い道路建設の障害になっている。一日も早い一体化を望むものである。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式 ③

岩手県西和賀町

1. 安全で快適な道路環境整備の推進(歩道の設置、舗装の老朽化の対応、橋梁の維持修繕)
2. 他分野との連携した、道路網整備の推進(観光、農業、歴史文化等)
3. 豪雪地帯における住民の安全、安心の除雪体制の推進
4. 地震及び災害に強い道路網整備の推進(橋梁の耐震対策等)
5. 地域に合った道路網整備の推進(道路構造令の検討)

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

岩手県西和賀町

○重点事項	○期待する効果や評価等	○その他
特になし		